



こゝとらか

神伽太事紀

三三卷

目録

一 雜魚森河の奥なるまののり

武蔵の者今ふたに氣とらり

楠と六郎も白嵐氣の煙に煙

沙前のそ危たつ如る急が目見

森田

才二

倭臣よも登と喰と俄推舞

音の方の飲立と皇位と
皇位とら新梅と推と
凍云よりよりりしと切腹のよ際

才三

昔の百傳と義理の心と播磨の勢

親父の恨むむが結屋のりり竹
らの掛首おめく岩屋のりり
宮方の捕の根の蔓又軍法の珠

① 雜貞後へのけりから守の身お

唐虞禪し夏后殷周の継ぎ義一なり座を血の天不國を
海のたふそかりれをそ遠天令に何をのちたふそ
けの身のとふそ天令よ何をのしは御後らの心もそまかり也
おの事よ何れ後をそれが身は悪むぬと遠んとし人の物とて
なる山の時をたふれよよひ代はるの物とむとが昔姓は人の田を
うとひ一と利とゆる事有り世はの天回首よりそくそ身の内
改減とら如けりよは御まて人の辭とて金破利はよとと
よくはくして皆是るも文を自らたのちがも有りぬとそ
これと論議清の福徳よとととたうきびよと書おのそこれ
よともお知り後よは御いよと焼く火よ徳とよのたこの



